



2021年2月9日

報道関係各位

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）創発的研究支援事業に 慶應義塾大学先端生命科学研究所以から3課題採択される

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は2月2日、破壊的イノベーションにつながる自由で挑戦的・融合的・多様な研究を長期間支援する「創発的研究支援事業」の2020年度採択課題を発表し、慶應義塾大学先端生命科学研究所以から3件が採択されました。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は2月2日、「創発的研究支援事業」の2020年度採択課題を発表し、慶應義塾大学先端生命科学研究所以（所長 富田勝、以下慶大先端生命研）からは3件が採択されました。

創発的研究支援事業は、多様性と融合によって破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指し、既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な多様な研究を、研究者が研究に専念できる環境を確保しつつ長期的に支援するものです。研究費（直接経費・上限額）は1課題当たり総額で5千万円、研究期間は原則7年間にわたります（途中ステージゲート審査を挟む、最大10年間）。

慶大先端生命研から採択された課題は以下の通りです（50音順）。

・平山 明由 特任講師「1細胞統合メタボローム解析システムの開発」

1細胞レベルで代謝物の網羅的な計測が可能となるメタボローム解析システムの構築を目指します。これまで集団の平均としてしか分からなかった代謝物を1細胞の解像度で測ることができれば、医学や生物学をはじめとして、様々な分野に応用できる革新的な研究ツールとなり得ます。

・村井 純子 特任准教授「複製ストレス制御機構が引き起こす生命現象の総合的理解」

がんはDNAをコピーする「複製」機構の異常が原因となることが多く、抗がん剤治療によっても複製異常は起きるため、そのメカニズム解明と制御が課題でしたが、SLFN11という遺伝子の研究からこの新たな機構発見に成功しました。更なる解明はがん治療などに大きく貢献すると期待されます。

・湯澤 賢 特任講師「合成生物学的手法による抗生物質の自在合成基盤の確立」

新規に開発される抗生物質が減り続ける一方、多剤耐性菌の出現が大きな脅威となっていることを受け、微生物により抗生物質様の化合物を迅速に合成・供給できる生産基盤の開発を目指します。将来毎年1千万人に達するとも予測される多剤耐性菌による死亡を大幅に減らすと期待できます。

富田所長は「科学の全分野を対象とした高倍率のJST創発的研究助成金を慶大先端生命研単独で3件採択していただきました。「メタボローム」「がん」「微生物」と先端研の柱である3つの研究テーマがそれぞれ採択されたことで追い風となり、さらなる発展が期待できます」とコメントしています。

本件に関する詳細は、関連URLの通りです。

・JST創発的研究支援事業ウェブサイト <https://www.jst.go.jp/souhatsu/index.html>

<本発表資料のお問い合わせ先>

慶應義塾大学先端生命科学研究所以 渉外担当

TEL 0235-29-0802 FAX 0235-29-0809 Email office@ttck.keio.ac.jp

<http://www.iab.keio.ac.jp/>